

【アメリカ】国家情報長官の就任指名を受けたタルシー・ギャバード氏による日本に関連する過去の X での投稿についての質疑応答

海外立法情報課 渡辺 広樹

* 2025 年 1 月 30 日に上院諜（ちょう）報特別委員会が開催した国家情報長官指名承認公聴会において、候補者が過去に X（旧 Twitter）で行った日本関連の投稿に関する質疑が行われた。

1 公聴会で取り上げられた投稿

トランプ政権により、米国の情報機関を統括する国家情報長官への就任指名を受けたタルシー・ギャバード（Tulsi Gabbard）氏は、2023 年 12 月 7 日に X（旧 Twitter）で、次の投稿を行っていた。

「日本の太平洋侵略を思い起こすとき、私たちは自分自身に問いかける必要がある。現在進行中の日本の再軍備は本当に良い考えなのか？ 近視眼的で利己的なリーダーたちによって、再軍備した日本と私たちが再び対峙（じ）するようなことにならないよう注意する必要がある¹。
#PearlHarbor82」

2 公聴会での質疑応答

1 の投稿に関して、キアステン・ジリブランド（Kirsten Gillibrand）上院議員（民主党・ニューヨーク州選出）は、次の質問を行った²。

「[前略] 中国に関して続けて質問させてください。これはあなたの職掌で特に重要な部分であるからです。あなたがこれまでの 15 年間 [ママ] に [下院] 軍事委員会の公聴会において、中国の体制 [architecture]、中国による宇宙 [での] 能力、海軍力並びに空軍力などのありとあらゆる能力の増強、そしてそれら全ての能力が、いかにして中国の、より悪質な対外影響力や台湾に対する野望と合致するかについて [委員の一人として] 耳にしてきたことを知っています。

それは、非常に危険で懸念すべきシナリオをまさに生み出しています。そこで、日本について質問させてください。約 1 年半前、[つまり] 13 か月前に、あなたは日本が自国の防衛体制を増強することを容認するのは賢明とは思えず、近視眼的であると思うとおっしゃいました。その点について少しお話しいただけますか。

なぜなら、私たちの日本との同盟関係は、中国の悪意ある活動に対して防衛する能力において、地理的なものだけではなく、過去 50 年にわたり、緊密な同盟であり、私たちが信頼する

* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2025 年 3 月 11 日である。 [] 内は筆者の補記である。

¹ Tulsi Gabbard (@TulsiGabbard), "As we remember Japan's aggression in the Pacific, we need to ask ourselves this question: is the remilitarization of Japan, which is presently underway, truly a good idea? We need to be careful that shortsighted, self-serving leaders do not end up bringing us again face-to-face with a remilitarized Japan. #PearlHarbor82," December 7, 2023, 18:16. X <<https://x.com/TulsiGabbard/status/1732690475482755422?lang=en>>

² U.S. Senate Select Intelligence Committee, "Hearings," January 30, 2025. <<https://www.intelligence.senate.gov/hearings/open-hearing-nomination-hearing-ms-tulsi-gabbard-be-director-national-intelligence>> 以下、本節の記述については同じ。公聴会の議事録は、有料データベースの ProQuest Congressional のものを適宜参照した。本質疑応答は以下のリンクからも視聴可能。PBS NewsHour, "WATCH: Sen. Gillibrand asks Gabbard about her stance on Japan's military capabilities," January 31, 2025. YouTube <<https://www.youtube.com/watch?v=gCixUFyCa0E>>

同盟といえるぐらい重要であるからです。私たちは情報を共有し、作戦を共有する、それは重要な同盟です。あなたの懸念とは何であったのか、そしてその点において改めた見解はありますか。」

この質問に対して、ギャバード氏は、次のとおり回答した。

「〔前略〕私も同意します。日本は米国の強力な同盟国です。ハワイ州兵としての異なる立場において、私は日本に赴き、日本の自衛隊と共に訓練任務を遂行し、その軍隊〔自衛隊〕と憲法は、主に自衛に焦点が当てられています。

以前提起した懸念は、日中の歴史的な背景という、より大きな視点から実際に着目することと、日本が憲法上採ってきた自衛的な態勢から、より攻撃的な態勢へのこの種の変化がどのようにエスカレーションにつながるかの意味合いを認識することと関係がありました。

そして歴史的背景を踏まえ、私たちは自身の安全保障上の利益に及び得る影響について認識しなければならないのです。そして、もし、国家情報長官に御承認いただけましたら、あなた方又は大統領が検討なされている様々な政策又は行動が、歴史のニュアンスの幅広い背景及びアジア太平洋域内に存在する複雑性を通じて十分考慮されたものになるように、綿密な分析及び評価をあなた方や大統領に提供できることが、まさに私が切望しているものであり、私はこの地域で育ちましたので、私は〔その地域について〕精通しています³。」

3 公聴会後の追加質問とその回答

公聴会后、ジリブランド上院議員は、次の追加質問を行った。

「13 か月前に、日本が防衛体制を強化することを米国が容認することは近視眼的であるとツイート〔Xに投稿〕した理由に関するあなたの答弁で、あなたは、日本と中国との間の「歴史」は「私たち自身の安全保障の利益」に「影響を及ぼす」と指摘した⁴。情報機関がいまだに気付いていないとあなたが信じるのは日本と中国の間の歴史のどの側面か。

日本の防衛費の増加は、第一次トランプ政権を含めた複数の政権の優先事項であった。あなたは、日中関係に関する歴史的な分析を大統領に提供することを切望していると述べたが、この政策上の優先事項に対する方針転換を大統領に助言するつもりなのか。また、第一次トランプ政権下で承認された、今までで唯一かつ最大の対外有償援助案件（foreign material sales）の相手方として、日本が行っている米国の防衛技術に対する特定の投資のうち、あなたの見解において「エスカレーショナル」なものは何で、それはあなたがこの投稿を行う契機となったものか。」

この追加質問に対して、ギャバード氏は、次のとおり回答した。

「国家情報長官として承認された場合には、私は大統領及び政策立案者に対して、意思決定に影響を与えるような時宜を得た、正確かつ偏りのない情報を提供することとなる。私の職責は、最も有益なあらゆる情報を大統領に提供し、なおかつ、大統領が望む外交政策を実行するに当たって、情報機関が万全な態勢にあることを確保することである。」

³ 米領サモア出身のギャバード氏は、2013年から2022年にかけてハワイの選挙区選出の下院議員として、下院軍事委員会委員（2014年から2021年）等で委員を務めた。2002年から2022年までは民主党に所属し、2024年に共和党に参加した。下院議員の任期中には米日議連にも参加していた。詳細については、U.S. Senate Select Intelligence Committee, “Response to Questionnaire for Completion by Presidential Nominees.” <<https://www.intelligence.senate.gov/sites/default/files/q-tgabbard-013025.pdf>> 内の、“SSCI Question 15 Attachment”を参照。

⁴ U.S. Senate Select Intelligence Committee, “Response to Post-Hearing Questions.” <<https://www.intelligence.senate.gov/sites/default/files/qfr-tgabbard-013025.pdf>> 以下、本節の記述については同じ。